



Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ



- ◆例会日/週火曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 2 階
- ◆会 長 / 掛川 興太郎 ◆副 会 長 / 小池 平一郎
- ◆幹 事 / 矢島 栄一 ◆クラブ広報・情報委員長 / 中河 邦忠

2016~2017 年度

国際ロータリーのテーマ

NO. 1353 平成29年2月14日

◆点鐘	掛川興太郎 会長
◆SAA	橋詰 希望 委員長
◆ソング	奉仕の理想

【会長挨拶】 掛川興太郎 会長

皆さん、こんにちは。

今日は2月14日、バレンタインデーです。聖バレンタインが殉教したとされる日。この日から小鳥が愛を語るといい、ヨーロッパでは14世紀ころから、恋人どうしが贈り物をし合い、また女性から男性に恋を打ち明けても良い日とされている。チョコレートをおくるのは日本の習慣。チョコレート協会の仕掛けとされています。

ロータリー財団の地区補助金の申請の期日が近づいてまいりました。小諸浅間ロータリークラブとしては、江戸時代から続く伝統がある、八幡宮の八朔相撲の、継承を支援することが大切なことだと考え申請する予定です。昨年、八朔相撲の子供たちを見ておまして、いまの子供たちに伝統行事の意義やその重要性を理解してもらおうとともに、将来を考えてもらうことも重要だとおもいました。子供たちが遊びのなかで育つことは30-40年以上前に子供だった人達は身をもって知っているだろうと思います。学校から帰ってくると、空き地に集まって、チャンバラごっこや、缶けり、相撲など、夢中になって遊びに興じた経験から、多くのことを学んだように思います。今の子供の遊びは個の遊びになり、人とのつながりや関わりが必要なく、人との距離感を図る必要のない小さな画面のなかの遊びであるように思います。人とのつながりを嫌い、拒否する傾向は、今は、若者にも表れているようにおもいます。

しかし、嘆いてばかりではいけないように思います。子供たちの為に、遊びを再構築してあげる策を、地域も学校も考える時のように感じます。ロータリーがその手助けが出来ればと思います。

【幹事報告】 矢島 栄一 幹事

1. 第 2560 地区 田中政春ガバナーより糸魚川大火義捐金礼状
2. 原拓男ガバナーより
「2017~2018 年度地区研修・協議会」開催案内
日時 4月9日(日)
受付 9:00
本会議、分科会 10:00~16:00
場所 松本大学
詳細は3月初旬に正式な案内

3. 週報

上田六文銭RC

例会終了後、現及び次期合同理事会

【本日の配布物】

週報 1352 号、ロータリーの友 2 月号

◆出席報告 前田 博志 委員長

会員数24名 出席義務者22名 免除者2名

本日	出席	16名	
	事前 MU	1名	72. 73%
前々回(1/31)	MU	0名	78. 26%

◆委員会報告

クラブ広報・情報委員会 中河 邦忠 委員長

「ロータリーの友」1月号紹介

奉仕プロジェクト委員会 黒澤 明男 委員長

書き損じハガキ回収、ご協力お願い致します。

◆ラッキー賞

No. 5 中河 邦忠 君

◆ニコBOX 黒澤 明男 委員

中河 邦忠君	ラッキー賞、頂き有難うございます。
黒澤 明男君	書き損じハガキ回収にご協力をお願い致します。
前田 博志君	いつもありがとうございます。
小池平一郎君	IMさぼりました。松宮剛は大学 1 年の時の同級生です。
小林 秋生君	

次週のプログラム：2月21日

「平和と紛争予防/紛争解決月間」

矢島 栄一 会員

次々週のプログラム：2月28日

「自己小伝」 山口 洋一 会員



「2017 合同会員セミナー&IM報告」 矢島 栄一 幹事

本日は、12日、上田の高砂殿において行われた東信第一グループ、第二グループ合同会員セミナー&IMに参加して参りましたのでそのご報告をいたします。

当日は幹事の責任を感じつつ、ちょっと早めの11時35分のしなの鉄道で現地に向かいました。同じ電車に橋詰さんと黒田さんも乗り合わせていました。会場着は12時を少し回ったところで、まだほとんど人も集まっていませんでしたが、ホストクラブの皆さんに大人数で出迎えていただき、その雰囲気には圧倒されてしまいました。ちなみに今回のホストクラブは上田クラブと千曲川クラブで、たいへんお疲れ様でした。

友愛の広場でお茶菓子とともにコーヒーをいただきながら、小諸クラブの皆さんとひと時を過ごしました。当クラブが6人、小諸クラブは11人の参加人数でした。

全体会議は時間通り1時から始まりました。まずは高見澤ガバナー補佐による点鐘で始まり、上田RCの布施実行委員長の開会の言葉、国歌及びロータリーソング斉唱と続き、東信第二グループの関ガバナー補佐より開会のご挨拶がありました。

たいへんに季節感あふれる挨拶で歓迎していただきましたが、「いよいよ花粉症の季節到来間近で既に目がしょぼしょぼ、鼻はズルズル」というお話しは、文字通り「同病相哀れむ」心境でお聞きました。

第一部の会員セミナーは、望月直前ガバナーによる「ロータリーはどこへ行く」サブタイトルが「ロータリーの成り立ち」と「職業奉仕」の返還という内容の講演でした。

冒頭に「ロータリーは、それぞれロータリアンの皆さんがロータリークラブの良さを探して、かつそれによってロータリーを楽しむということが一番大切というのが私のセミナーの結論です」ということを話されました。

たいへん印象的だったのは、講演の前段でいきなり「ロータリーはどこへ行く」「昼飯食いに行く」という話しをされ、これには受講者一同苦笑しながらも、どう受け取ったらいいものか途惑っていました。これはイギリスの劇作家バーナード・ショーという人の言葉で、1921年のことバーナード・ショーがロータリークラブから講師の依頼を受けた際、「私はロータリーがどこへ行くのか知っている。ただ昼飯を食べに行くだけ」と皮肉って批判し、講師を断ったとのことでした。

また、直前ガバナーご自身のエピソードも話されました。ガバナーエレクトのとき、まだ大学院在学中だったので、担当教官に半年ほどの休学のお伺いを立てたところ「そんな金持ちの道楽団体の長になるために休学するなど認めることはできない」との回答だったそうです。それを聞いて激しい憤りを覚え、あらためて「道楽」という言葉を辞書で引いたとき、その意味に再度ショックを受けて鼻血が出たそうです。

要はロータリーという名前を知っていても、それがどういう団体でどういう活動をしているかはほとんどの人が知らないという事実は昔も今もほとんど変わっていないというのが現実です。

セミナーの本題では、いろいろなテーマをもとにお話しいただきましたが、その内容はどれも望月直前ガバナーの見識の深さに驚かされるものばかりでした。逐一解説すると時間も足りませんし、また講演者の真意をきちんとお伝えできそうもありませんので、レジュメを読んでご理解いただくしかありませんが、直接受講された皆さんにはその内容がしっかりと心に刻まれたことと思います。



「IM記念講演を鑑賞して」 小林 秋生 会員

「うさぎ追いし〜山極勝三郎物語」と題された郷土発の偉人映画を観させて戴きました。今までに無い記念講演の形態に、まずは感銘を受けました。ご講演の先生は、上田市出身の映画プロデューサーの永井正夫さんですが、うえだ城下町映画祭の自主制作映画コンテストの審査

員でもあり、審査員賞として、永井正夫賞が設定されているとのことでした。

さて、映画鑑賞に先立ち、先生がこの映画を製作することに至った経緯を語ってくれました。上田市で、市民の中に映画への製作情熱が高く、うえだ城下町映画祭があることは皆さんもご存知のことだと思います。永井先生は、上田市出身ではありますが、監督時代の頃から関わりがあった訳ではなく、何でも、以前に大腸癌を患い日本癌センターへ入院した際に病理学で癌の研究に生涯を懸けた大先生のいる事を知りました。それは、まだチョンマゲ姿の残る寺子屋で少年時代を過ごし、同じ上田地方出身の偉人、「山極勝三郎先生」でありました。明治時代、東京へ出て、町医者の方山極家へ養子に入り当時最高学府であった帝大の医学部を出て、医者となりました。が、医療の道でなく、病気のもとを解明したいと病理学・癌の出来る仕組みを追及し、うさぎを使って、ついに人工癌を達成し、ノーベル賞候補にもなった山極勝三郎、これは映画を作り郷土ばかりでなく、日本中、いや世界中に観せなければと永井先生は、限られた予算で苦勞しながら情熱を燃やしました。

映画は1時間半くらいであり長い映画ではありませんが（もっと予算があれば脚色も充実したと思います）偉人主演は、今売れ筋俳優の遠藤憲一、その他、そうそうたる役者が効果的でありました。内容は感動的で感涙で見ているのは私だけでは無かったと思いますが映画が終わって会場が明るくなったとき、しばらく“シーン”と間があって後、大きな拍手でありました。これから、一般の映画館へ公開されてゆくとの事ですので是非ご観賞下さい。